

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070102262	
法人名	株式会社 栄光	
事業所名	グループホーム ひかり	
所在地	群馬県前橋市南町3-7-5 KCC2F	
自己評価作成日		評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 権利擁護ネット はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7
訪問調査日	平成22年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までを大切に、状態が悪くなった利用者様でも家族、主治医、各関係機関等と連携をとり、家族の希望があれば可能な限り看取りをしている。今まで暮らし、住み慣れた場所が「ひかり」であり、甘えられる人が職員であるならば、その気持ちに沿いたいと思う。なにと比べてではなく、評価ではなく、利用者様にとって、私たちに大事な家族を預けているご家族にとって、「良いグループホーム」でありたいと願う職員の意識の高さが当グループホームの誇れることだと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

看取りの実践を行ったが、管理者とスタッフは結果を真摯に受け止めている。それは、見取り後「これでよかったのか」「ご本人の思いに沿うことが出来たのか」等を自問自答し悩み話合った。看取りをすることは、スタッフの日常生活に制限も加わり、精神的なストレスも多くあった。それでもやり抜き、ストレスはあったが、もう嫌だ・もうやらないとは決めていない。条件が整えばまた挑戦もあり得るという。2つ目は経営者兼管理者が若く、ホームとして出来ること・出来ないことを本人・家族に伝えている。出来ることにはとことん努力している姿が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中でその人らしく暮らしていく」という理念の下全スタッフでその思いを共有し実践にむけて努力している。	「その人らしく暮らしていく」ということは本人にとってどういうことかを考え、日々のケアに生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出の中で、地域の方々と日常的に触れ合える機会を作っている。	前橋駅に隣接し大型店が閉鎖されるなどで外出先に変化もあるが、コンビニエンスストアの利用や飲食店の利用・散歩に出かける等で地域との関係性を保つようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出時の車の乗降や、外食先での協力等声をかけて「手を差し伸べて」頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の方々の参加は少ない。グループホーム側からの働きかけが押し付けがましいものにならないよう、今後も継続して声をかけていきたい。	1年間に5回開催されている。コンビニエンスストアの店長に参加してもらったり、日ごろの活動に連携させている。議事内容は近況・活動報告、出席者同士の情報交換、家族への連絡を行い、市役所・近隣住民。家族等の参加がある。	定期的(2ヶ月に1回・年間6回)な開催を行い、市役所の協力を得て、区長・民生委員等の参加を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に思うことやわからないこと、困ったことなど頻繁に相談させて頂いている。	電話等で情報交換している。空情報や介護保険更新申請手続きの代行等で市に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め、身体拘束0を実施している。	玄関・居室等の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ささいなことを見過ごされることがないように、職員同士「虐待」の定義について話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて権利擁護、後見人制度の利用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様が管理者、職員に意見や要望を伝えやすい関係を築いている。又、直接言いつらい場合は市役所や国保連合会等に相談して頂けるよう、連絡先等を契約書に明記している。	ホームで出来ることと出来ないことを家族に話している。家族の不満は積み重なる前に対処しようと考えている。家族・本人には「どうしてほしいか」聞き、同時に本人の思いも家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	希望休や日々のケアへの各自の考えを話し合う機会がある。昼食代の半額補助や忘年会等が行われ、利用者と職員の相性等も考慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいをもって働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会等、職員が受講したいと希望するものは就業時間内に受講させている。又、勉強会等の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、交換研修や見学等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご家族や関係者等からの聞き取りを行っている。又、入所後も本人からのサインを見逃さないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に聞き取りをしている。又入所後もご家族の意見や要望等連絡をとり伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時にご家族から聞き取りをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いて行きたいと思って仕事をしている。自己満足になってはいないか？と日々、葛藤している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に変化があった時、ご家族の支えが必要な場面は協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際、自宅へ出かけたり、面会の制限などをなくしている。	個別で外出し、希望により祭・買物・自宅・寺・たい焼き屋等、住んでいた近くに出かけている。買い物に出かけた場合はお勘定を払ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士、同じテーブルにするなど、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談等連絡があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望に沿った生活が送れるよう支援している。	日常の発した言葉をそのまま文書に起こし記録し、生活全般の好きなことや本人が発したことを把握している。家族と暮らしたい・家に帰りたいという望を家族に代弁している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、ご本人からの話の中で生活歴の把握に努めて、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の小さな変化を見逃さないよう、職員間で日々の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意見を大切に、現在の状態を理解して頂き、介護計画を作成している。	今年度より個人ケース記録を担当制にし、月に1度のケース会議時にモニタリングを行い、介護度の変更時や認定期間と随時の介護計画の見直しを行っている。	月に1度のモニタリングを参考に予防的観測を含めて3ヵ月毎の介護計画の見直しをお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録、ケース記録、申し送りノート等を使用し、利用者様の状態の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用したいが、現在前橋駅周辺は過疎化が進み、行きなれていた店舗等の閉鎖等があり、利用者様は寂しがつている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が望む病院で受診をしている。	本人・家族の希望する協力医の支援を行っている。月に2回の協力医の往診や必要な場合の皮膚科医の往診、訪問歯科の支援がある。24時間対応の協力医と訪問看護サービスがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で訪問看護が1/週で来所するので、その都度相談させて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病状に応じて、退所も検討するが、戻れる状態であれば、毎日の面会、洗濯はグループホームで対応。病院関係者とも関わりを持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期等、変化があった時点でご家族、主治医、看護師等含め話し合いをおこなっている。	この1年で2人の看取りを行った。24時間対応の協力医・訪問看護ステーション・家族・スタッフが協力し行えたが、看取りの支援が「私達でよかったのか」という疑問がスタッフ間には振り返りとして残った。負担もあったがやりきった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	通報訓練、緊急時の対応は全ての職員が学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月、10月に避難消防訓練を日勤帯、夜勤帯両方の想定で行っている。又、上階が共同住宅なので、共有のエレベーターに避難時のお願いを貼り出している。	年に2回の昼夜想定で行っている。ホームがマンションの2階のためマンション住人にも協力を求めている。	月に1度はホーム独自の避難訓練を行い、近隣者の協力を得てほしい。また、備蓄の手配もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「地域の中でその人らしく暮らしていく」という理念の下、全スタッフでその思いを共有し実践にむけて努力している。	地域での活動には本人の意向を尊重している。外食や買物は自由な個別サービスを心掛けている。呼称もなんと呼んでもらいたいかを訪ね、その通りの呼びかたをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の働きかけではなく、職員と利用者との信頼関係のもとにおいて「希望が言える」「甘えられる」のではないかとと思う。私達がそんな信頼関係を作れているか？は100%とはいえないと思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは自宅。という思いのもと、各利用者様の1日の過ごしたいペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類のチョイスは基本的に本人のこだわりを重視している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が好きな方には下ごしらえと一緒にメニューを考えて頂いている。	利用者と職員は同じものを同じ場所で楽しみながら食べている。外食には食べたいもの・時期のもの等に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者ごとに現状態に合った食事の提供、水分量が少ない方には好みの飲み物の提供をしている。又通常の食事でも栄養の吸収が良くない方には栄養補助剤を処方して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを施行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の機能は個人により違う。現状の維持に努めている。	自立の人が3人・誘導の人が2人とおむつの利用者がいる。それぞれのタイミングの声掛け等の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者ごとに既往も異なるので主治医の指示のもと対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回以上の入浴を目指しているが、こちら側の都合を優先してしまうことがないよう、利用者様の希望に沿った入浴をして頂いている。	週に3～4回午前から午後にかけての支援をしている。毎日入浴できる支援がある。入浴剤や季節により菖蒲湯・ゆず湯で楽しみになる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の習慣、体調に配慮して休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様ごとに服薬の管理、効用等処方ごとにファイリング。服薬の変更があった際は全職員に申し送り、確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を職員が把握し、支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿った外出の支援をしている。(広告を見たり、雑誌を見たりして行きたい所を話し合っている)	花見(コスモス・ひまわり等)散歩・買物には個別で外出している。本人の行きたいところを聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は利用者様同士の混乱を招くため自己管理ではなくGHが預かり、買い物や外食等の際、本人に支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙がくれば返事を書くように勧めてみたり、希望時の電話の使用は自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れながら、シンプルな空間であるよう心がけている。	明るい日差しが入る共有空間は季節のスキが飾られ、ソファの色とりどりのクッションはポップな感じがする。外出時の写真が飾られ、テーブルが2つに分けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のダイニングの他にソファを置き食事とは別の空間がとれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、今まで本人が使用していた家具等をできるだけ継続して使用して頂くために、引越は職員と一緒にしている。	明るい色のカーテン・仏壇やたんす・ソファ・テーブル・衣装ケース・写真が持ち込まれ、飾られ、その人らしい設えとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要だと思われる場所に手すり等の設置をしている。		